

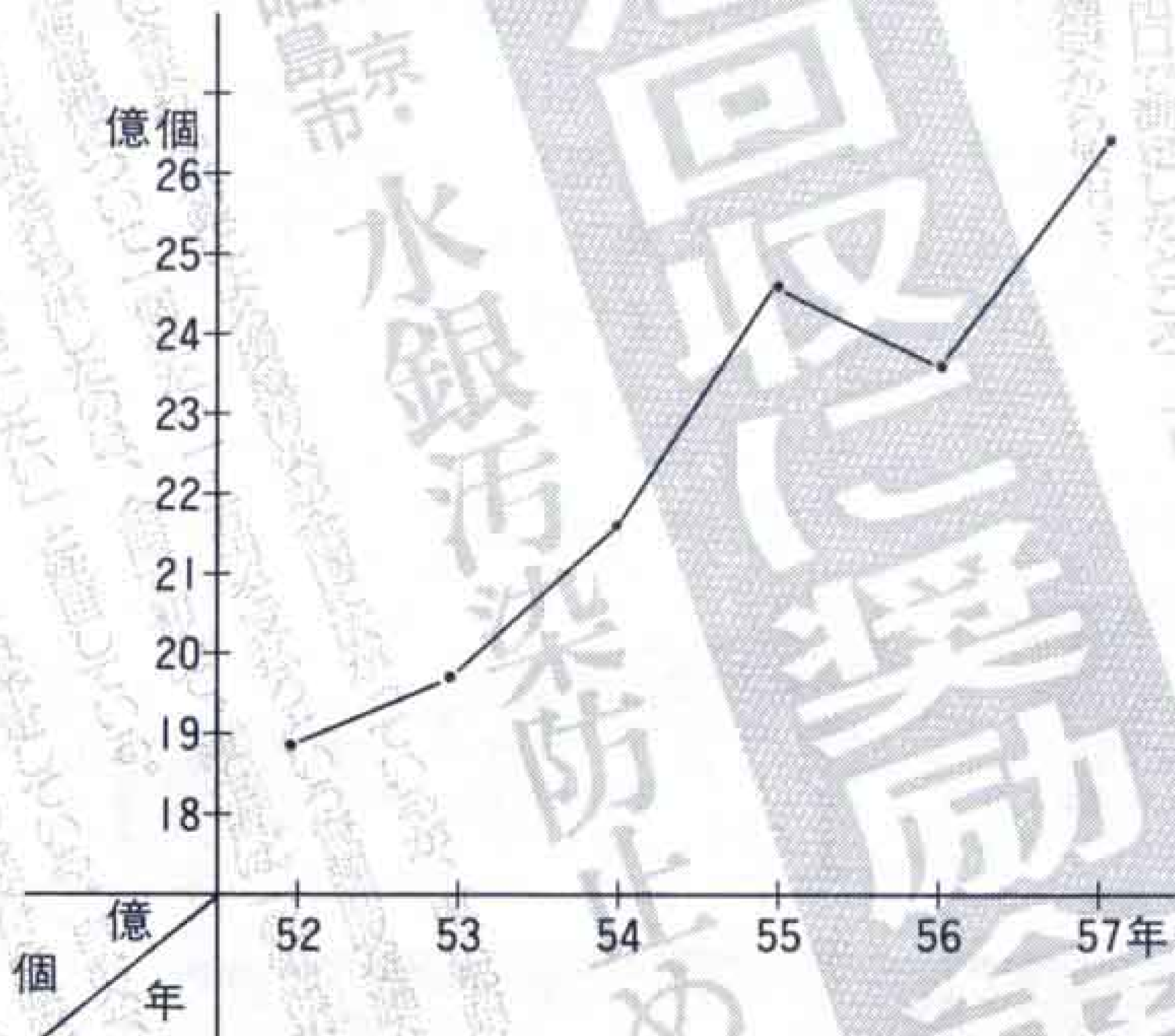
も や る ん で す ネ

富士市

4月1日から

乾電池生産量の推移

昭和30年には年間1億個にすぎなかった生産量も近年では下表のとおり——。



レポーター 久保田美也子さん (36歳) 主婦中桁



乾電池は埋立ごみの日に収集



家庭で使用済みとなった乾電池がごみとして廃棄される時、大気汚染や土壌汚染の可能性があると、「乾電池公害」が、最近大きな話題になっています。

乾電池の水銀が問題

便利さの中で、家庭内での乾電池の使用量は、近年急速に増え、それに伴って昭和57年には全国で、約26億個の乾電池が生産されています。

富士市でも、年間50～60トンもの乾電池が不燃物として収集され、埋立てられています。

埋立てられた乾電池は、腐触によって、中の水銀が土壌に流れ出し、また、可燃ごみの中にまじって、捨てられた乾電池は、焼却されることによって、水銀が気化し、大気中に拡散していきます。

これらの水銀は、無機水銀・金属水銀と呼ばれるもので、水俣病の原因となった、有機水銀とは種類が異なり、ただちに人体に害を及ぼすことはないと考えられています。

しかし、今後も家電製品の小型軽量化や、電子器具の普及により、乾電池の使用量は拡大し、それに伴い廃棄される水銀の量も、増えるものと予想されます。

現在、乾電池は埋立ごみと共に収集、一括処分されていますが、環境保全のため

に、予防措置をとることが必要でしょう。

美しい街、より良い環境を目指すことは、私たち市民の願いです。

こうしたことから、富士市では、昭和59年4月1日を目標として、乾電池の分別収集を実施することになりました。

環境衛生課では「市民の皆さんにぜひこの乾電池の分別収集にご理解をいただき、乾電池をごみとして出す際には、他のごみとの区分を心がけてくださるよう、ご協力をお願いします」とのメッセージです。

回収カンの中へ

現在、乾電池は月に2回、埋立てごみとして収集されています。

その収集日は、今までと変わりませんが、分別のために、各不燃ごみの集積場所に赤いカンが、置かれます。

これが、「乾電池専用」回収箱となります。

赤色のカンに、白で「乾電池入れ」と書かれます。埋立ごみを出す際に使用済乾電池を他のごみと分けて、この中に入れてください。

回収する乾電池の種類は、マンガン電池・アルカリ電池・水銀電池・銀電池等で、市販されているすべてを対象とします。

電池の形としては、単一～単五形ボタン型・積層型とやはり形を問わずに、回収されます。

また、ボタン型乾電池のみについては、昭和59年2月から、日本電池器具工業会の自主事業として、全国のカメラ小売店・時計店・一般電気店等において、回収函を設置し回収活動を実施しています。

回収された廃乾電池の処分方法として、①回収業者の引取り ②業者に委託をして処分をしてもらう、のいずれかが検討されている状態です。

市は、それらの実現が難しい場合、廃棄乾電池をコンクリート詰めにした上で、埋立処分する予定です。

取扱いにも注意を!

生活の中に、あまりにも身近にある乾電池なので、今まで何気なく扱って過ごしてきました。

取材をしてみて、昨今、TV・新聞等の報道をみても、乾電池に使われている無機水銀は、人体に直接害はなくとも、何らかの原因によって有機水銀に化学変化する可能性が、まったく無いではないと言った話も聞きました。

乳幼児の誤飲事故等、聞くに及びその取扱いには、十分な注意をしなければならぬと思いました。

富士山百景



浮島から見た富士山

市内で、あなたが気に入った場所から撮影した富士山の写真をお送りください。▷送り先 広報広聴課

私の好きな富士



中里3丁目 萩原邦明さん(62歳)

1、富士山のように たくましく 働くよろこびをもち 健康な家庭をつくります